



株式会社グランドパレス川端

ウィズコロナ時代に 新たな「創出の場」を

地域の人々の人生を見守ってきた「感動・創造・発信」企業

▶▶ 時代の移り変わりで新たな局面に

グランドパレス川端グループは、1948年に初代が「割烹川端」として創業して以来、長きに渡り大仙市をはじめとした周辺地域の冠婚葬祭事業に携わってきた。2代目の齋藤誠助現会長は、1978年に総合宴会場を主事業とする株式会社を設立。1993年には前年に着工された秋田新幹線による観光客増加を見込み、全室離れの「山の手ホテル」を、2000年には日本を代表するアーティスト達が手掛けた独立型挙式用チャペルをオープンするなど、差別化を意識しながら事業を拡大。2005年に代表取締役役に就任した齋藤浩英氏は、時代の変化による婚礼規模の縮小を受け、葬儀関連事業や「山の手ホテル」ブランドの食品販売事業にも注力してきた。

2020年から続くコロナ禍でコンベンション業界が苦境に立たされる中、齋藤社長は、稼働率が低迷している宴会場の一部をレンタルオフィスとしてリニューアルすることを決断。「20代の半数近くが地方での勤務を希望している、という数年前の新聞記事が頭の片隅にありました。都会を離れ、地元や地方で働きたいというニーズの高まりに応えたいと考えました」。業績が落ち込む中で慎重な意見があったものの、社員の賛同もあり、齋藤社長は国の地方創生テレワーク交付金の活用を視野に入れ、移住・定住施策を推進する大仙市と連携しながら計画を進めた。スペースの設計にあたっては秋田市内等のシェアオフィスを参考にしたほか、社員のアイデアも取り入れた。

経営探訪

▶▶ 「交流と創造」の場を目指して

2022年3月、総合宴会場「フォーシーズン」の1階は、レンタルオフィス「コミュニティスペースGATHER」に生まれ変わった。重厚感のあるキッチンカウンターや華やかなラウンジ、会食も可能な和室、オンラインイベントなどにも活用できる大型スクリーンまでも備えるのは、宴会場ならではの強みだ。ビジネスだけでなく、勉強や、就職活動のリモート面接などさまざまな利用場面を想定し、防音のリモートルームやバリアフリーのブースも新設。大仙市と協力して首都圏の企業に呼びかけを行っており、サテライトオフィススペースには東京の企業と大仙市の出先機関が入居するほか、レンタルスペースにもすでに複数の利用申し込みがある。「いろいろな人が集まり、コミュニケーションから何かが生まれる場所、そして発信できる場所になって欲しいと願っています。新しいことが始まるワクワク感、前向きな気持ちが社内に広がっています」と、齋藤社長は期待を寄せる。



サテライトオフィス3室のほか、1〜3名用のタイプ別個室と、ビジター利用可能なフリー席も備える。

▶▶ 顧客・社員・会社がともに愉しめる関係を

現在、グループ全体の社員数は58名、うち6名が20代だ。同社が大切にしていることは、顧客、社員、会社の三方ともに満足できる『CES(Customer Employee Satisfaction)』という考え。休日が不規則になりがちな業界だが、「ベストファミリーデー制度」を独自に設け、家族の記念日や行事に休みを取りやすい環境を整えている。また、現場の意見を月2回の幹部会議で検討して試行するサイクルがあり、このサイクルによりサービスや料理などを常に改善し、会社と社員の成長に繋げている。今年1月には、活性化センターのプロフェッショナル人材戦略拠点を活用して副業人材を採用した。ブランド力を強化して、既存業務に加え、レトルト食品や総菜等の開発と販売、折詰や弁当宅配事業の拡大を図る狙いだ。「やりたいことがたくさんあるので、外部人材の力も借りて実現していきたいです。『地域になくてはならない企業』であり続けるために、新たな出会いから得られる視点や発見を敏感に捉えて、事業に取り入れていきたいと考えています」。



フロア全体にWi-Fi6を完備



完全防音のリモートルーム



車椅子対応の個室

地域に還元し、自らも
発展していく企業で
あり続けたいです。

代表取締役社長 齋藤 浩英
さいとう ひろひで



株式会社グランドパレス川端

〒014-0051 秋田県大仙市大曲浜町7-39
TEL.0187-62-0354 FAX.0187-63-0354 <https://www.e-gpk.co.jp>
創業/1948年 資本金/9,500万円 従業員数/約60名
業務内容/リゾートホテル、結婚披露宴、各種宴会、葬儀、レストラン、ケータリング、
職業研修、美術・芸術・文化教養セミナーの主宰企画

